

石川県立美術館だより

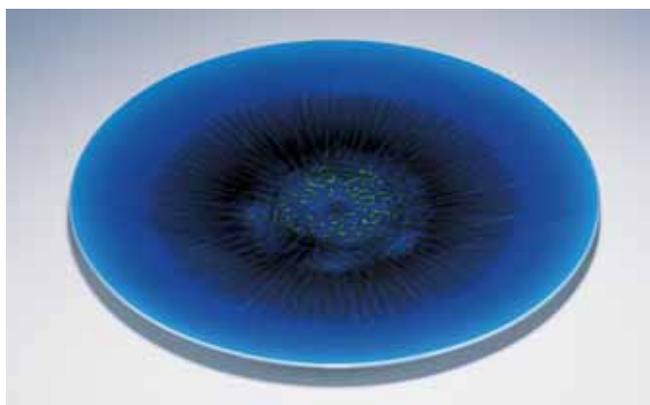
平成18年11月1日発行 第277号

第53回 日本伝統工芸展金沢展

11月3日(金・祝)～11月12日(日) 会期中無休



日本工芸会奨励賞 銀四分一打出象嵌花器 前田宏智



日本工芸会奨励賞 彩釉鉢「深海」 田島正仁



新潟県指定文化財「上杉謙信並二臣像」
新潟県常安寺蔵

特別陳列 北陸の肖像画

11月16日(木)～12月23日(土・祝)
会期中無休

目次

日本伝統工芸展金沢展.....2	展覧会回顧.....6
北陸の肖像画.....3	企画展TOPIC 石川義展.....6
名物裂と香道具.....4	ミュージアムレポート、行事案内.....7
石川の木彫.....4	所蔵品紹介.....8
コレクション展示室 主な展示作品.....5	ミュージアムショップ通信.....8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

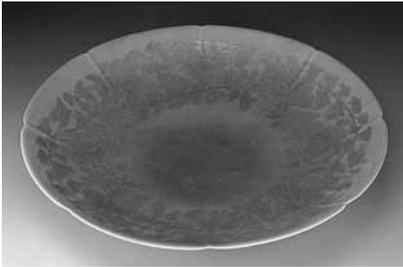
企画展示室(第7~9展示室)

第53回 日本伝統工芸展金沢展

11月3日(金・祝)~11月12日(日) 会期中無休

主催/石川県教育委員会、日本放送協会、朝日新聞社、
北國新聞社、日本工芸会

後援/文化庁、富山県教育委員会、福井県教育委員会



釉裏金彩牡丹唐草文大皿 吉田美統



耀彩十二稜壺「恒河」 徳田八十吉



櫛造方盛器 川北良造



漆絵国花平棗 大場松魚



沈金箱「霽れる」 前 史雄



曲輪造藍胎食籠「寒暁」 小森邦衛



砂張水指「水紋」 魚住為楽



象嵌花器「瀑泉」 中川 衛

わが国には、世界に卓絶する工芸の伝統が有ります。それは、各地の風土に根ざした工芸品を生み出し、そして、その伝統技術を大切に継承し発展させてきました。これらの伝統工芸技術の保護と後継者の育成ならびに伝統工芸に対する普及を目的として毎年開催されるものです。

今回は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸(七宝・硝子・瑪瑙細工・截金など)の七部門の入選作品七百三十四点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の基本作品と、石川、富山、福井の各県、及びその他の都道府県の入選作品三百五十五点を展示します。

今年の石川県の入選者は新入選五人を含む九十一人で、そのうち入賞者は二人を数え、都道府県別では京都府の三人に次いで二番目となるなど、石川県の伝統工芸の層の厚さやレベルの高さをうかがわせるものでした。陶芸部門では田島正仁氏、金工部門では前田宏智氏が日本工芸会奨励賞を受賞しました。

また、今年の「特別展示 わざを伝える」では、「木工芸」伝承者養成研修会の制作作品を展示し、同会の研修風景を収録したビデオもあわせて上映いたします。

観覧料

一般	600円	個人	一般	500円
大学生	400円	個人	大学生	300円
高校生以下	無料	個人	高校生以下	無料
団体(20名以上)		団体		

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。

テレビ放映
北陸三県のNHK総合テレビで、11月5日(日)午前7時45分から本展の放映があります。再放送は11月10日(金)午後8時から、11日(土)午前10時5分からです。

列品解説
会期中11月3日の午後、5日の午後、9日午後を除いた毎日、午前11時と午後1時30分の2回、人間国宝の先生を含む出品者などによる列品解説を行います。

講演会(聴講無料)
演題「古典と創作」
講師 北村 昭斎氏(重要無形文化財「螺細」保持者)
日時 11月5日(日)午後1時30分
場所 当館ホール

今月のコレクション展示室

(第2展示室)

特別陳列

北陸の肖像画

11月16日(木)～12月23日(土・祝)



芭蕉像 成田蒼虬賛 梅田年風画



芭蕉の句画賛 千代尼賛 高田甫尺画

石川県をはじめとした北陸地方に伝わる歴史上の人物を描いた肖像画を紹介します。肖像画は、過去の著名な人物の姿を今に伝える作品として、我々に親近感を抱かせてくれるだけでなく、その装いなどから、過去に思いを巡らせることもできる大変興味深い作品群です。

肖像画が制作された中世から近世にかけての人々も、肖像画に熱い眼差しを向けていました。敬愛・慈悲・崇敬といった想いと願い。描かれた像主が没してもなお、こうした人々の想いと願いを伝える役割を、肖像画は果たしてきたといえます。家祖としての武将あるいはその夫人を、時には神のように崇めてきた証としての肖像画。幼くして亡くなった子を悼む肖像画。軽妙ながらも、師への想いに溢れた俳人の肖像画。供養として、または後継たる証として伝えられた頂相など様々です。本展では、北陸地方にゆかりのある歴史上の人物の様々な肖像画をとおして、その姿を知りたくて、

◆中近世の武将と女性像
武将像が登場するのは、その政権が武士の手に委ねられた鎌倉時代以降です。畳の上に座し、

肖像画の背景に込められた人々の想いについて紹介しようとするものです。

羽織袴または肩衣袴姿に刀を携え、顔はやや斜めを向くような姿で描かれています。こうした武将像が飛躍的に増加するのが室町時代以降のことで、現在も全国各地にその地で活躍した武将の肖像画が伝えられています。

天正五(一五七七)年九月、畠山氏の七尾城を落とした上杉謙信(一五三〇～七八)の肖像画はいく種か伝えられています。本展で紹介するのは、その中でも珍しい二人の家臣を従えた図です。上部に描かれる謙信は法衣に袈裟の姿で、修法の最中の光景です。机上には仏具が見え、手前に控える二人も、杯を乗せた三方に銚子、刀を持っています。生前の姿を描いた可能性が高く、こうした三尊形式を意識した肖像画は、北陸地方ゆかりの画像に数例を見る程度の大変珍しいものです。ここでは、「上杉謙信並二臣像」(表紙写真)などの武将像や夫人像を紹介します。

◆近世の俳人など

江戸時代の後期に入ると、俳諧の隆盛とともに俳人の手による洒脱で機知に富んだ俳画が登場します。俳句とそれにちなんだ絵画が添えられますが、その句を詠んだ人物の姿が描かれることもあります。

松尾芭蕉(一六四四～九四)は江戸時代とおして、その姿が描かれ続けた俳人の一人です。加賀では芭蕉門下の俳人が活躍し、各地からも多くの俳人が訪れましたが、芭蕉の五句を千代尼(一七〇三～七五)が記し、京都の俳人甫尺(？)がその姿を描いた本図は、芭蕉がその没後も、多くの俳人より師として崇められ続けていたことを表しています。

一方、加賀藩の御用絵師梅田家の八代目で、俳諧もよくした年風(一七九一～一八四六)による芭蕉像は、芭蕉の側にあつた杉風の芭蕉像を模したものです。軽妙な甫尺の芭蕉像に対して、「こちらはいわば「正統」な芭蕉像で、その凛とした姿が印象的です。

◆肖像画を描く
一 加賀藩御用絵師梅田家資料より
その梅田家に遺された資料の中には、肖像画を模したものの、あるいは肖像画の下絵となつたものが多く含まれています。残された肖像画は様々で、武将像だけでなく夫妻像、俳人像、高僧像など確認できます。肖像画の制作が御用絵師の仕事として、重要な位置にあつたことがうかがえます。

こうした資料には、衣服の形状や色の指示が細かく記されるほか、特に顔の部分については、幾度となく描き直されていることがわかります。いかに特徴を掴み、いかに似せるか、こうした苦心の程がうかがえます。

◆中近世の頂相

頂相とは、禅宗における肖像画のことで、師資相伝の証として、師が弟子に自賛を添えて与えるものです。北陸地方は、道元の永平寺に始まり、続いて加賀に大乘寺、能登に永光寺・総持寺と開かれた初期曹洞宗が栄えた土地です。ここでは、大乘寺(金沢市)・東嶺寺(七尾市)・鶴林寺(金沢市)・瑞龍寺(高岡市)などに伝わる頂相を紹介します。(これらの頂相については、次号で詳しく紹介します。)



明峰素哲頂相 金沢市大乘寺蔵

今月のコレクション展示室

(前田育徳会展示室)

特集
名物裂と香道具

11月16日(木)~12月23日(土・祝) 会期中無休

名物裂とは、そのほとんどが中国の元・明・清の時代に織製されたもので、鎌倉・室町時代から江戸時代中期にかけて日本に舶載され、わが国の茶道をはじめ近世文化の成立に重要な貢献をはたした裂地類の固有名称です。内容は金襴、緞子、間道が主で、錦、風通、縹珍、ヒロード、印金、モール、更紗などがあります。この舶載裂は書画の表装裂や名物茶道具の仕覆として、当時の優れた鑑識眼をもつ茶人たちによって選択されたものです。前田家の名物裂は、三代藩主利常の収集によるものです。寛永十四年(一六三七)、当時唯一の海外への窓口であった長崎へ家臣を遣わせ、買い求めさせたといわれています。利常の美意識には、他のいかなる大名の追隨をも許さないスケールの大きさがありましたが、この名物裂収集にもそれが如実に表れています。

今回は、金襴、緞子、錦、間道など二十五点を展示しますが、初公開の「蜀江錦」が含まれています。蜀江錦とは中国の蜀(四川省)の地で織製された錦という意味で、花文や龍文が幾何学的に配された繋ぎ文様の特徴で、わが国ではこのような文様を蜀江文様と呼びます。能装束では蜀江錦を用いた狩衣が有名ですが、翁の装束として使用されます。龍文や麒麟文が一段ごとに互の目に配されて、雄渾な幾何学文様を構成しています。前田育徳会が所蔵する名物裂のなかで、織り始めから織り止まりまで完璧な形で伝えられる最も見事な作品です。また、幾何学的な直線文様で雲龍文を表した「有栖川錦」、錦の中では異色の絵画的な文様の「清水裂」など、反物のままで所蔵されているものが注目されます。

仏前荘厳に始まる香は、中世には茶道や華道とともに芸道としての香道が成立、江戸時代には組香(数種類の香を組み合わせたものを聞き当てる遊び)が盛んになりましたが、その際に使用する香道具をあわせて展示いたしますので、名物裂ともに洗練された美の世界をご堪能下さい。

今回の特集は、当館の館蔵品の木彫作品を中心に一部借用品も含め、石川の木彫の近現代の流れを展示構成するものです。

木彫は日本彫刻の主流をなすものでしたが、江戸期には精緻を極めるものの工芸的な「彫りもの・細工もの」へと変貌し、西洋的リアリズムに触発された明治期の木彫家たちは、写実を求めそれらからの脱却を目指しました。本県では相川松濤、松井乗雲、村上九郎作、向政次郎らがこの時期の作家です。

その後大正期から昭和戦前にかけては塑像が主流になりますが、院展彫刻部で活躍した山本力吉や田中太郎の木彫作品は、写実を越え、象徴主義的な意味合いをも感じさせます。

金沢美術工芸大学の彫刻科で教鞭を執った高橋清は抽象的な石彫の傍ら優れた木彫作品も制作しました。その教えを受けた作家の一人梶本良衛の作品からは木の柔らかさ暖かさが強く感じられ、造形性はむろんのこと「物語」を語る彫刻といえます。

さらに若い世代には、ダイナミックな人体の集合で空間を埋め尽くす内平俊浩がいます。細部にこだわらぬ荒削りな表現はコミカルであると同時に辛辣な口調で世相を切ります。

こうして見ていくと木彫表現は、「彫りもの・細工もの」のミクロ的物語世界から造形を主体としたリアリズムへ、そしてリアリズムを超越して表現主義へ、さらには巨大な集合体による物語へと、螺旋階段を描いて歩んでいるようにつかげえます。

木彫という伝統的な彫刻技法によって生み出される多彩な世界をご堪能いただければ幸いです。



微風 山本力吉

特集
石川の木彫

-彫る・削る・みがく-

11月16日(木)~12月23日(土・祝) 会期中無休

今月のコレクション展示室

(第4展示室)



黒豹 横山豊介

今月のコレクション展示室 主な展示作品

11月16日(木)～12月23日(土・祝)

= 国宝 = 重要文化財 = 石川県指定文化財



海山十題より 東山魁夷

前田育徳会展示室

特集 名物裂と香道具

- 興福寺金襴
- 清水裂
- 蜀江錦
- 黒塗菊折枝時絵十種香箱
- 黒塗秋草時絵香割道具

第1展示室

- 色絵雉香炉
 - (11月16日～27日まで貸し出しのため不在)
 - 色絵雌雉香炉
- 野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

- 【古九谷】
 - 色絵鳳凰図平鉢 古九谷
 - 青手樹木図平鉢 古九谷
 - 特別陳列 北陸の肖像画
 - 上杉謙信並二臣像
 - 芭蕉像
 - 明峰素哲頂相
- 新潟県・常安寺蔵
金沢市・大乘寺蔵

第3展示室

- 【油彩画】
 - 酔って候
 - フードの女
 - アルパニアの花嫁
 - コンカルのバルコン
 - 裸女達に捧ぐ
 - 【版画】
 - 海山十題
- 鴨居 玲
高光一也
裕伊之助
藤本東一良
宮本三郎
東山魁夷

第4展示室

特集 石川の木彫

- 「彫る・削る・みがく」
 - WOMAN 21 シリーズ
 - 雨が・・・
 - 朝
 - 微風
 - 黒豹
- 内平俊浩
梶本良衛
書間 弘
山本力吉
横山豊介

第5展示室

- 【陶磁】
 - 釉彩華陽飾鉢
 - 釉裏金彩大山蓮花文鉢
 - 【染織】
 - 友禅訪問着「白菊」
 - 【金工】
 - 砂張稜線磨地水指
 - 【人形】
 - 彩塑人形「神事鶴祭」
- 二代 浅蔵五十吉
吉田美統
森口華弘
三代 魚住為楽
三代 紺谷 力

第6展示室

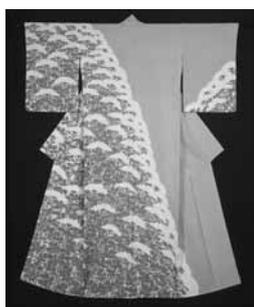
- 【日本画】
 - 沼影
 - 月
 - 更
 - 寂光
 - 長江の朝
- 大島寿喜
中町 進
羽根万象
浜出青松
横山大観

観覧料

一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円	人	大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	



寂光 浜出青松



友禅訪問着「白菊」森口華弘



コンカルのバルコン 藤本東一良

展覧会回顧

夏休み 親子で楽しむ美術館 にんげんがいっぱい はいポーズ!

夏休みの企画として、毎年コレクション展示室で開催しております「夏休み 親子で楽しむ美術館」。今回のテーマは、人物に着眼し、「～にんげんがいっぱい、はいポーズ!」というサブタイトルを上げ、さまざまな表情・動きのある人物を中心に表現されている作品28点を選び、第6展示室に展示しました。

人物をさらに4つのグループに分け、子どもの表情・しぐさのかわいい「こどもたち」グループ、働く姿や動作・動きを表現した「はたらくすがた・うごくしぐさ」グループ、美しく見せる立ちポーズ・すわりポーズを表現した「きれいにみせる」グループ、顔を中心に、いろいろな表情などを表現した「いろんなかお」グループと、それぞれに絵のポイントとして印象的な作品を選び、お子さんの視点・観点に合わせて作成した鑑賞用の手引きを見ながら、親子で考え、会話を楽しみながら鑑賞できるように企画・展示しました。

子供を連れて美術鑑賞に来るのは、子供が騒ぐのではないか、作品の楽しみ方が解らないのではないかと心配される方も多いようです。この夏の企画展示では、鑑賞手引きでも自分で考えるワークシート型のものであったり、休憩用の椅子のところには児童向けの美術本を準備

したりと、お子さん自身でも、親子一緒にでも展示を楽しめるような工夫を心がけました。また、今回鑑賞するだけでなく、展覧会に参加する部分で、「今日の自分の顔日記を描いてみよう」というワークシートを準備したところ、たくさんの参加を頂きました。会期中、展示室内にてファイル形式で展示させていただきました。ありがとうございます。

コレクション展示は毎回の展示替えて作品は入れ替わっております。また、高校生以下は無料です。家庭や学校ではつくることの楽しさを味わう機会は多く出会えると思いますが、鑑賞する(みる)ことの楽しさを味わう機会は圧倒的に少ないと思います。夏休みの特集展示に限らず、月に一度、キッズプログラム鑑賞講座などを利用され、親子で来館して美術鑑賞を楽しんで頂きたいです。



企画展TOPIC

連載 第1回 - 日本の自然・原風景を描く -

郷土が生んだ
日本画家

石川 義展

1月4日～2月4日

このたび当館では、金沢出身の日本画家で、日展評議員の石川義氏の展覧会を開催することになりました。

本展は、去る平成16年度、当館に多くの作品をご寄附いただいた石川氏の、寄附作品を中心に代表作を集めて展覧するもので、氏の画業を総覧する回顧展といえます。現在、当館には計82点の氏の作品を収蔵していますが、これらをまとめてご紹介する機会がなかったこともあり、今回その全貌をご覧いただこうと企画しました。その内容は、初期から最近の制作にいたる日展出品作に加え、



潮韻 石川義

グループ展や個展に発表された多岐に渡るもので、わが国の豊かな自然をじっと見つめ、その奥に潜む生命の鼓動を感じ取り、絵筆に託してきた氏の暖かいまなざしと、熟練した技量をうかがうことができることと思われま。

昭和5年、金沢市に生まれた石川氏は、金沢美術工芸短期大学(現在の金沢美術工芸大学)で日本画を学び、画技の基礎を修得し、卒業後は京都に出て精進を重ね、着実に自己の画風を形成していきました。その成果は日展において、昭和34・43年の特選、44年の菊花賞、55年の会員賞、そして平成13年の文部科学大臣賞に結実していくこととなります。また、自己の制作のみならず、昭和53年には日本画の研究グループ「玄」を結成、平成12年には金沢学院大学の教授として後進の育成に務められました。

これまで長く京都に居住し、制作活動を行っていたこともあり、郷里で氏の作品に接する機会は、あまりなかったといえます。しかし、もともと氏の先祖は、前田侯より「石川」という姓をいただき、彫物師達の取締りを明治維新までまかされていたといわれ、藩政時代より金沢との縁は深いものがあったわけで、画面の奥底には、北国の厳しい自然を感じさせる強靱な意志が潜んでいるかのようでもあります。今回の展覧会において、郷里が生んだいぶし銀のごとき輝きを放つ日本画家の存在を、あらためて見つめ直していただきたいと思います。

企画展示室

再興第91回 院展金沢展

11月16日(木)～26日(日) (第7～9展示室)

主催 / 財団法人 日本美術院、北國新聞社、石川県立美術館、財団法人 石川県芸術文化協会

現代日本画壇の最高峰の作品を網羅した「院展」を3年ぶりに金沢で開催します。今秋東京都美術館で開かれた本展から、福王子法林、松尾敏男、郷倉和子、那波多目功一(以上日本芸術院会員)、平山郁夫、下田義寛の各氏ら大家、人気作家の代表作に一般応募の入選作を合わせた96点を一堂に展示します。

入場料 一般 1,000円(800円)
 中高生 600円(400円)
 小学生 500円(300円)
 ()内は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

連絡先 金沢市香林坊2・5・ 北國新聞事業局
 a 076・260・3581



神峰黄山雲海図(部分) 平山郁夫

第16回 石川独立DO展

11月30日(木)～12月4日(月) (第8・9展示室)

石川独立の前身は、昭和54年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本的フォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、自由で個性強烈な作家を輩出していることで注目を集めています。

出品予定作家

大泉佳広、大西佑治、大部雅子、金子顕司、京岡英樹、桑野幾子、小森初香、指江昌克、佐藤仁敬、田井 淳、南城 守、西又浩二、堀 一浩、前田さなみ、三浦賢治、三科琢美、水野寿代、山田裕之

入場無料

連絡先 金沢市錦町2・26・1 大泉佳広
 a 090・6500・0839

2006 石川一陽会展

11月30日(木)～12月4日(月) (第7展示室)

今秋、東京都美術館で開催された第52回一陽展での石川一陽会(委員・会員・会友・一般)の出品作品(絵画29点・彫刻3点)を展覧します。一陽会は、表現様式のいかに問わず多彩な作家群を擁する個性的な美術団体です。東京都美術館では本年が最後の開催で、来年からは六本木に開館する新国立美術館を会場とします。半世紀を経て新たな時代に向けてのベテラン作家の秀作・中堅作家の意欲作・鋭い若手作家の力作、抽象と具象の多彩な作風が競合する展覧会をご高覧ください。

主な出品作家

<本年度審査員> (委員) 大場吉美(会員) 浮田正樹・大嶽英治・酒井幸雄・野村秀久・安田淳
 <会員推挙> (会友) 北谷茂子・白井正浩
 <会友推挙> (一般) 中田雅子
 <奨励賞> (一般) 益田恭行

入場無料

連絡先 石川一陽会 代表 大場吉美
 金沢市粟崎町2・86
 a 076・238・3096

ミュージアムレポート

ギャラリートーク「百々俊雅の世界」

8月26日(土)

第4展示室で開催していた「特別陳列 - 日本画家 - 百々俊雅の世界」展の、トークを行いました。土曜の行事に毎回参加していただいている常連の方々や、百々先生の関係者の方々を中心に、わずかな時間でしたが、作家のプロフィールや各作品の制作の背景、鑑賞のポイントなどを話させていただきました。実は事前に、百々先生に各作品の制作のエピソード等をおうかがいしており、その内容をベースにして、とにかく先生の思いが、何とか伝えられるよう努めたのですが、どうでしたか・・・

展示室には、日展初入選から昨年の日展出品作まで、写生を含めて35点を展示しましたが、その作風には一貫して豊かな色彩が見られ、会場に足を踏み入ると、パッと華やかな雰囲気にも包まれました。しかし、制作の背景を聞いて作品をよく見ていけば、華やかな表現の奥に、現代社会に生きる人々のさまざまな思いがこぼれ見え、心に響いてくるようでした。



11月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
11/12(日)	工芸技術記録映画 地元上映会	「銅鑼 三代魚住為楽のわざ」(文化庁企画映画) 1回目 午前10時 2回目 午後3時30分	ホール
11/18(土)	ギャラリートーク	加賀・能登の肖像画 (北澤 寛学芸主査)	展示室
11/19(日)	月例映画会	前田青邨と日本画の流れ (29分) 人形作家・秋山信子 - 心やすらぐ人形を - (38分)	ホール
11/25(土)	美術講座	映像の歩み(3) (西田孝司学芸専門員)	講義室
11/26(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物24 天平の華を映す鏡 (33分) 正倉院宝物25 天平の調べ (33分)	ホール

11月の全館休館日は13日(月)～15日(水)です。



ひょうもんこうりんたな
平文光輪棚

おおばしょうぎよ
大場松魚 大正5年(1916)～

大場松魚回顧展
奥行35.0cm×幅92.9cm×高さ58.8cm
平成2年(1990)

強烈なまばゆいばかりの光の輪が、青く輝く貝を配した宇宙の中心から飛び込んでくるような、また逆に、太陽のように光を放っているかのようにも見える力強い構成は、構図ばかりでなく棚自体の形体もあわせて見る者のこころに強く迫ってきます。天板や下盤の漆黒の部分にその輪が写り込む姿も、光の輪をさらに力強く印象付ける一つでもあるように思えます。棚の外側には鳥や草花が内側の光の輪から受ける力強さとは正反対に、細く優しい線平文で表現され配置されています。

この棚は、作者が取り組んでいた宇宙を表現することや、和は輪である・輪は和である、「和」輪」シリーズの集大成ともいうべき作品です。心の中にある思いが無限の世界へと広がる、作者が長年積み重ねた飽くなき探究心が見事に結実した作品になります。

作者は現在までに10基の棚を制作しており、この棚は9基目にあたります。今回の卒寿記念にあたり開催している特別陳列と、企画展「松田権六の世界 第3部」で展示されていた2基をあわせて10基すべてを11月1日より、作者の制作の変遷をじっくり鑑賞下さい。

(第5展示室 卒寿記念 人間国宝 大場松魚展
9月28日～11月12日まで展示中)

ミュージアムショップ通信

大好評を博した「松田権六の世界」、お楽しみいただけましたことと思います。皆さん改めて漆の美、匠の技に感嘆しきりのご様子でした。特別陳列の「人間国宝 大場松魚展」は引き続き11月12日まで開催していますので、まだの方はぜひご覧いただきたいと思えます。

さて、ショップからは新商品のご案内です。いま、大人の塗り絵がちょっとしたブームになっていますが、美術館でも当館の所蔵作品で遊ぶ「ぬりえミュージアム」を販売しています。内容は国宝「色絵雉香炉」、歌川広重作「日本橋 朝の景」、そして泉文「色絵鳳凰図平鉢」の3作品で8ページだでの構成とし、大人からお子様まで、お楽しみ頂けるものになっています。併せて12色の色鉛筆も販売しています。秋の夜長、ちょっとした手慰みにいかがですか。



定価200円

お知らせ

国宝の「色絵雉香炉」と重要文化財の「色絵雌雉香炉」が貸し出しのため、下記のとおり不在になります。予めご了承下さい。

- ◆不在の期間
色絵雉香炉 野々村仁清作
11月16日～27日
色絵雌雉香炉 野々村仁清作
10月12日～11月15日
- ◆出品展覧会名
「京焼・みやこの意匠とわざ」
- ◆主催・会場
京都国立博物館

休館日：11月13日(月)～15日(水)

石川県立美術館だより 第277号
2006年11月1日発行
〒920-0963 金沢市羽町2番1号
TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>